

商品の特徴他

1. 商品名 太陽光発電設備発電量管理シート

2. 開発背景

平成24年7月に「再生可能エネルギーの固定価格買取制度（全量買取制度）」（電気事業者による再生可能エネルギーの調達に関する特別措置法案）がスタートし、再生可能エネルギーとして太陽光発電設備が大きく注目され、全国のあちこちで太陽光発電設備が計画・設置されるようになりました。

通常、太陽光パネルメーカーは出力保証15年～25年を付加し、安心して導入してもらえるよう配慮がなされています。

太陽光発電設備全体の発電量は言うまでもなく、天候に左右されます。パネルメーカーは地域、設置角度、設備容量に応じて月別の予想発電量データ（kWh）を提示しています。太陽光発電設備を導入した場合、このメーカー予想発電量が正しく発電がおこなわれているかどうかの判断基準となります。なお、この値自体は少し控えめな値であることが一般的であり、その余裕をどれくらい持たせるかはメーカーごとに差はありますが、10%～20%程度控えめな値が提示されているようです。

太陽光発電を導入検討する際には、このメーカー予想発電量を元に、借入金の返済が何年で完了し、固定買取の20年間でどれ位の収益が得られるかを計算したうえで判断がなされたと思います。

用地の確保、経済産業省の認定、金融機関との交渉、電力会社との契約、工事業者との調整など、多くのハードルをクリアし、無事完成した時の喜びは格別です。多分、誰もが連携当初はどれだけ発電した？と興味を持って発電量の確認を実施された事と思われます。時間の経過とともに先月は天気が良くて沢山発電したけど、今月は雨が多くてあまり発電しなかったというように、だんだんと大雑把な管理となってしまうのが通常ではないでしょうか？

さてここで、月単位、年単位の売電量、売電金額の確認だけで果たして導入した太陽光発電設備が正常に稼働していることの確認が完全に出来ていると言えるでしょうか？

メーカーの出力保証が有りますが、天候の良し悪しとパネルの性能が低下していることの区別がつけられるでしょうか？太陽光パネルの汚れ、落葉などの影響で発電量が大きく左右される事は言うまでもありません。もし、周辺に大きな木があり、段々と成長し、気が付いたらパネルに影が出来ているというような事態も考えられます。

50kW以上の高圧設備の場合、パワーコンディショナーのフィルターを定期的に清掃しないと内部の温度上昇による異常停止の恐れも有ります。また、落雷などによる停電が発生した場合、低圧設備のパワーコンディショナーとは異なり、手動で復帰させる必要があります。これを怠ると、1日でも大きな金額の損失となります。

太陽光発電設備は通常、地上設置の場合、フィルターの清掃（高圧のみ）、雑草の対策程度で比較的管理が容易で確実に安定した収益が得られるものですが、それだけに、逆に設備の異変に気付かず、見過ごしてしまう可能性が有ります。

以上のように考えると、太陽光発電設備の発電量の監視を定期的に確実に実施し、正常稼働しているかどうかの確認が安定した収益を得る上で大変重要であることが分かります。

3. 本商品の特徴

3年分の最大4カ所までの太陽光発電設備の発電量、発電金額の推移が表、グラフで一目で確認できます。

簡単な発電量の入力のみで、発電金額を始めとする設備の状態を把握するのに必要なデータが連動して表・グラフに表示されます。（発電量、発電金額、メーカー予想発電量との比較、同月前年度比、各発電所毎の発電量の比など）

毎日の状態、1カ月単位での状態、年間通じての状態、3年分の発電量の推移を確認出来る為、太陽光発電設備の状態を天候の良し悪しによらず、正しく把握することが出来ます。

複数カ所の太陽光発電設備を所有されている場合、設備容量が異なっても、発電所ごとの発電量の比を自動計算して表示されるため、天候の影響によらず、設備の状態を確実に把握することが出来ます。

なお、データの入力方式は日々の発電量を入力する場合（発電モニター表示あり）と、発電モニター表示がなく、電力会社の積算メーターの値を不定期で入力する場合のいずれでも可能です。

データを定期的に入力することで何等かの異常が太陽光発電設備に起こっている場合でも早めに把握することが出来、被害を最小限に食い止める事が可能となります。

本商品を利用することで所有されている太陽光発電設備の発電量の監視を確実に実施し、良好な状態での太陽光発電設備の稼働を実現させて下さい。